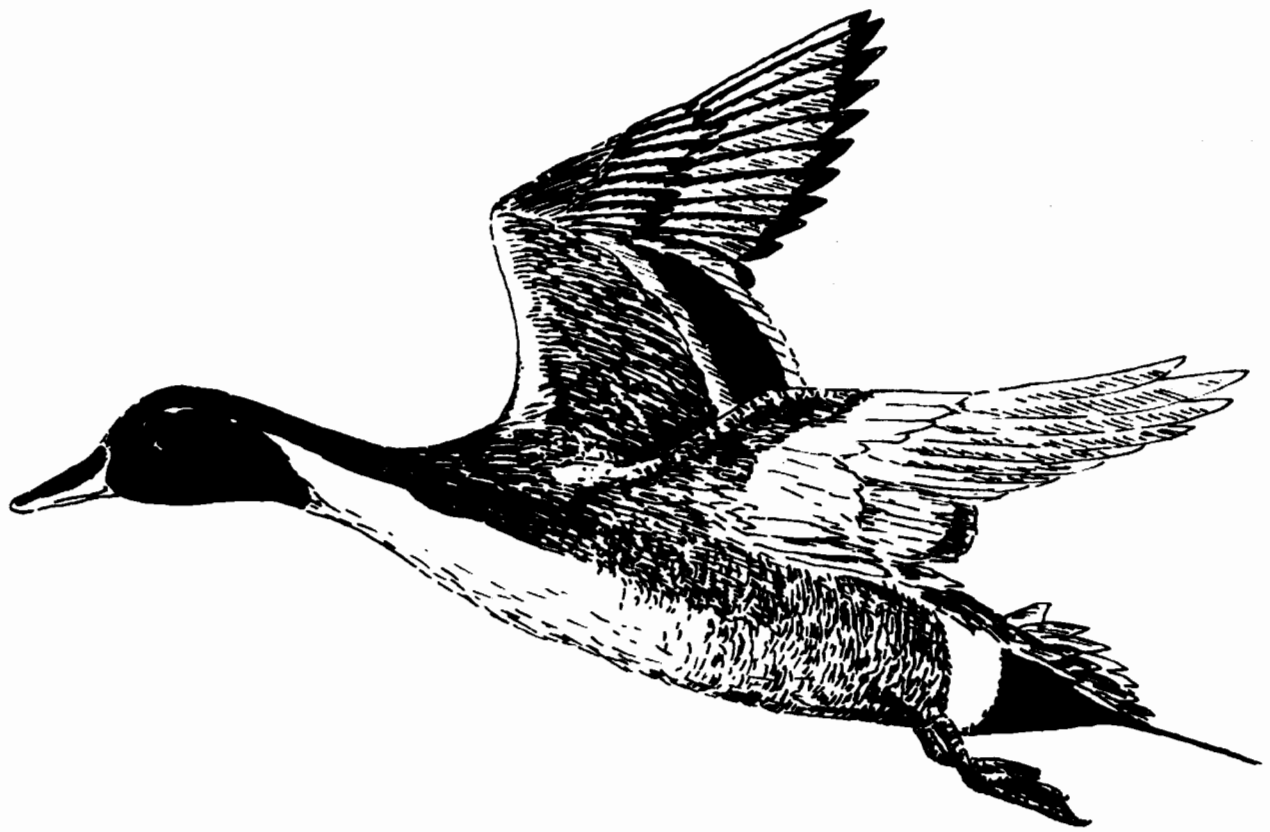


しんせう

第37号



2002年 11月
(財) 日本野鳥の会 三重県支部

● 切られたエノキ ● 平井正志

安濃川明合橋から上流はほとんど木がなく、右岸は篠竹の藪の堤防がつづく。その中に1本だけぽつんとエノキが枝を広げていた。特別大きくはないが、高さは10mくらいはあり、幹はひとかかえほどもあろうか、冬によくそこでオオタカを見た。元日、畑には誰もいない日、オオタカはそこで川筋の獲物をねらっていた。その木の下は藪になっていて、流れにそって少しだけ石組みがある。藪を通らないとそこにはゆけない。だれもないその上で、タシギの羽根をひとそろい拾ったことがある。尾羽から確かにタシギであることがわかった。コサギらしい羽根も見た。オオタカはそこを肉切り場に使っていたのだろう。ノスリもそのエノキの止まり場を利用し、静かにノネズミをねらっていた。イカルの群がエノキにとまり、ひとしきりさわぎたて、安全を確認してから、水浴びに川原へ降りるのを見たこともある。そのすぐ下の川原でイカルチドリの抱卵も見た。そのエノキの下は私のフィールドであった。バンディングのため、朝まだ暗いうちに近寄ると、その木から大きな鳥が飛び立つのを見た。なにも羽音を聞かなかった。フクロウかもしれない。

また夜にキツネを見たこともある。どこかそのあたりの堤防に巣穴を掘り、子供を育てているのだろう。藪に囲まれ、だれも近づかない河川敷、そのエノキの下では様々な動物が息を潜めて暮らしている。オオタカやノスリはエノキからそれをねらう。近くを通ると必ずその木を見るのが習慣になった。なにかいるかもしれない。

その木が突然無くなった。安濃川の右岸の藪を下流の方から伐採していたが、まさかあの大きなエノキまで切ってしまうとは。跡形も無くなってしまった。とりかえしもつかないことが起こってしまった。もう来春芽吹くこともない。オオタカがとまることもない。あのエノキはいったい何年生きていたのだろう。今はとても近寄って年輪を数える気にはなれない。川はきれいに草を刈られた堤防とだれでも近寄れる水辺があるべきなのであろうか？警戒心の強い鳥や動物は逃げてしまうのであろう。おそらくエノキを切った後にソメイヨシノでも植えるのであろう。皆それを見て春を楽しみ、自然だと思ふ。しかし、そこに心ときめかす発見はない。

目 次

今月の表紙 絵：平井 正志

- 巻頭エッセイ・今月の表紙・・・1
- 支部活動のページ・・・・・・・・2
- フィールド紹介・・・・・・・・5
- 会員のページ・・・・・・・・8
- 探鳥会報告・・・・・・・・11
- 編集後記・・・・・・・・13

平井 正志 (津市)

オナガガモ・・・カモというあまりスマートには見えないものが多い。しかしこのカモはすらっとした体つきである。顔は極めて渋い茶色なのだが、目の光を浴びると緑の光沢が見えることもある。どこにでもいるはずのカモであるが、三重県中部内陸の安濃町や芸濃町の池ではほとんど見ない。なぜなのかわからない。表紙の絵は一九八三年十二月に伊豆沼で見たもの。

オナガガモ
今月の表紙

木曾岬干拓フォーラム－自然と未来を考える－
が開催されました！！

2002年11月10日（日）13時より、長島町中央公民館で開催されました。

60名あまりの出席があり、木曾岬干拓地で繁殖しているチュウヒの保護についての議論、干拓地の利用方法についての意見交換を行いました。

最初に石川県河北潟でチュウヒの観察を続けて25年になる中川富男氏から、河北潟で観察したチュウヒについてご講演をお聞きしました。チュウヒの卵の色の変化、雄・雌での虹彩の変化の違いなど、現場で観察した貴重なデータを教示いただきました。

続いて、名古屋鳥類調査会代表の森井豊久氏より今年の1月から観察を始めた木曾岬干拓地における鳥類調査の中間報告が行われました。今年の繁殖はうまくいかなかったのではないかと報告でした。

中川氏によると、木曾岬干拓地の状況であれば数多くの繁殖が可能であるという指摘もあり、今後どのような理由で繁殖がうまくいかなかったのか考えなくてはなりません。

その後、意見交換を行いました。多様な環境をつくり、野鳥にとっての楽園とすることが今まで自然を破壊してきた人間の責務ではないかという指摘がありました。

来年も観察を続け、三重県・愛知県の公園計画に対して、野鳥保護の立場からの意見を述べていかなければならないと再確認できました。

（文責：保護部木曾岬干拓地担当 近藤義孝）

● 支部活動の記録（8月～11月）

事務局まとめ

2002年

- 8・25 静岡県の新井氏が同行し、安濃町溜池現地見学（保護部・津地区）
- 9・ 支部報「しろちどり」第36号発行・発送作業（編集部・津地区）
- 9・ 5 平成14年度宮川流域ルネッサンス事業 NPO 委託調査として
第2回宮川河口調査（南勢地区）
- 9・19 上野市法花の引台国有林内における粘土採掘計画について林野庁三重森林管理署長と支部長他2名で面談
- 9・19 木曾岬干拓フォーラム2002 第2回打ち合わせ会（保護部・北勢地区）
- 9・29 四日市「霞4号幹線」計画について意見交換会に出席（保護部）
- 10・6 事務局会議
- 10・18 安濃町溜池改修事業計画について要望書を提出（保護部）
- 10・20 高松海岸において（社）四日市青年会議所の行事に協力（北勢地区）
- 10・28 員弁郡開発計画について申し入れ（保護部）
- 11・ 3 保護部会
- 11・ 6 員弁郡開発計画についての現地説明会へ保護部長他3名で出席（保護部）
- 11・14 県環境部を交えて現地見学（保護部）
- 11・10 「木曾岬干拓フォーラム2002－自然と未来を考える－」 開催
- 11・16 安濃町溜池改修事業計画について町長と面談（津地区）
- 11・22 第3回宮川河口調査（南勢地区）

● これからの活動（12月～2月）

- 12 支部報「しろちどり」第37号発行・発送作業
- 12・1 2002年度第3回理事会
- 12・21 亀山市中央公民館が催す講座へ講師派遣
- 12・22～23 第10回野鳥密猟問題シンポジウム in 東京
- 2003
- 1・15 ガン・カモ類一斉調査（研究部）
- 2・16 2002年度第4回理事会
- 2 2002年度実施分県委託調査事業の報告書作成・提出
- 2 来年度の活動計画立案作業

ありがとうございました！

心無い釣り人が放置した釣り針や、釣り糸によって傷つく鳥たちをなくしたい・・・そんな想いを込めてつくられた「釣り針、釣り糸捨てないでポスター」。

この夏、三雲町在住の会員、熊澤英樹さんは、数多くの釣具店に出向き、ポスターを貼っていただくようお願いに回っていただきました。支部の活動に積極的なご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

安全運転に心がけて

桑名市

藤田克三

鈴鹿の山に雪が積もり始め水辺には、カモ類やカンムリカイツブリが姿を見せ、寒さもいよいよ本格的になってきましたが、皆さんはいかがでしょう。

さて、最近長良川、揖斐川の中提で乗用車の転落事故が、2年間で4件4人水死しているようです。私も11月3日そのうちの1件を目撃しました。見通しの良い一本道で、何故これだけの事故が起きるのでしょうか。その原因として次の事が上げられます。

見通しの良い道路ということから気の緩みからくる脇見運転や、居眠り、スピードの出し過ぎ、横風にハンドルを取られる。また、中提では水防上の理由からガードレールがほとんど設置されていないため夜間、道路状況がわからないということも事故多発の要因ではないかと思えます。皆さんも安全運転を心がけて、有意義な野鳥観察をお楽しみください。

狩猟が始まりました。ご注意を！！

今年も11月15日から狩猟が解禁（翌年2月15日まで）になり、鳥獣にとって受難の季節がやってきました。

初日、県環境部によると、県内ではおもにカモ目当てのハンターが約700人出猟したそうです。これから野外へお出かけの際は、狩猟地図や標識で安全を確認してください。とくに、山へ行かれる方は、目立つ服装を着用し単独行動は慎みましょう。

下記のような禁止場所での狩猟行為や、保護区外へ鳥獣を追い出して撃つ、公道で猟犬を放す、公道で猟銃をむき出したまま歩く、などの行為を見かけましたら、もよりの警察、市町村、県民局生活環境部、県環境部（059-224-2578）、または事務局（090-1566-6010）までご連絡ください。（トラブルを避けるため、直接の抗議は、控えてください。）
（事務局・西村）

◇ 捕獲禁止場所

- ① 鳥獣保護区及び休猟区
- ② 公道
- ③ 公園
 - ・自然公園法による特別保護地区
 - ・都市計画法に基づく園地等の内、囲い又は標識等でその区域を明示したものの
 - ・原生自然環境保全地域
- ④ 社寺境内及び墓地

◇ 銃猟の禁止場所

- ① 銃猟禁止区域
- ② 市街地その他人家稠密の場所
- ③ 衆人群衆の場所
- ④ 日没後から日の出前
- ⑤ 銃弾の達する恐れのある人畜、建物、汽車、電車若しくは艦船に向かったの銃猟

（平成14年度三重県鳥獣保護区等位置図より引用）

※ 狩猟地図は、各自治体の狩猟担当部署か県民局生活環境部、県環境部へお問合せください。

*** 本の紹介 ***

推薦：(財)日本野鳥の会・全国野鳥密猟対策連絡会

「野鳥売買－メジロのたちの悲劇－」

講談社 遠藤公男著 定価800円（税別）

【内容紹介】

小鳥店ではたくさんの野鳥が輸入ものと言って売られています。その陰には、実は輸入ものとして偽って密猟鳥を売っている人たちがいて、密猟者は全国にたくさんいます。

著者はこの本の中で、野鳥売買の驚くべき実態を暴き、「籠の鳥」開放に向けた取り組みや現状の法制度について明らかにしています。

神戸の里山

西浦克征

この里山は津市神戸（かんべ）と久居市明神町にまたがる地域で、コナラ、クヌギ、ヤマザクラなどに加えて一部植林されたスギも見られます。林床にはササが茂り、ヒサカキやガマズミなど実のなる木々も垣間見られます。谷間で作られていた水田の大部分は既に放棄され、アシ、ガマ、セイタカアワダチソウなどが繁茂しており、その所々にはハンノキやヤナギ、ノリウツギ等の灌木が進入してきております。この付近には数個のため池がありますが、散策コースの途中に有る石神池などから流れ出た水は湿地をつくり岩田川の上流へとつながっており、トンボの格好の生息地ともなっています。人里からは少し離れており、林が有り、草地が有り、水が有って鳥たちにとっても安住の地と言える環境です。

散策の起点は、津側からは「津市青少年野外活動センター」を、久居側からの場合は久居高校から東へ600mほどの地点（救世神教本部への途中）からが良いと思います。津側からのアクセスは、車の場合は23号線の日本土建ビル（JR阿漕駅の東側）交差点を西に約2km進み、サークルKの信号を左折、すぐ右折して細い道を少し行ったところにセンターがあります。バス利用の場合は、津新町発「神戸」下車となります。久居側からは往復2時間程度、津側からは往復3時間程度で散策できると思います。

さて、前述のように放棄された水田跡の草地は小鳥たちの絶好の住処となっています。

特にウグイスとホオジロの固体数は多く、春の陽気に誘われるころは愛の大合唱が聞こえてきます。この頃には草地の向こうの木々の上を行ったり来たりするホトトギスも見ることができます。両側の林から林へと飛び交うヒヨドリやメジロ、コゲラ、キジバトそして草陰に潜むキジなどは、年中観察することが出来ます。冬季には枯草の中でカシラダカの群れやアオジ、ベニマシコなどが見られ、コナラやエノキの枝には、枯葉かと思間違ふほどのツグミの群れを見ることもあります。シジュウカラ、ヤマガラ、エナガなどカラ類やカワラヒワ、ジョウビタキ、ルリビタキ、シロハラそしてアカゲラなどもこの時期に出会うことがあります。石神池の近くではダイサギやアオサギなどに、また目の前の草地からハチクマやハイタカなどの猛禽類が急に飛び立つ姿などを時として見る事が出来るかも知れません。

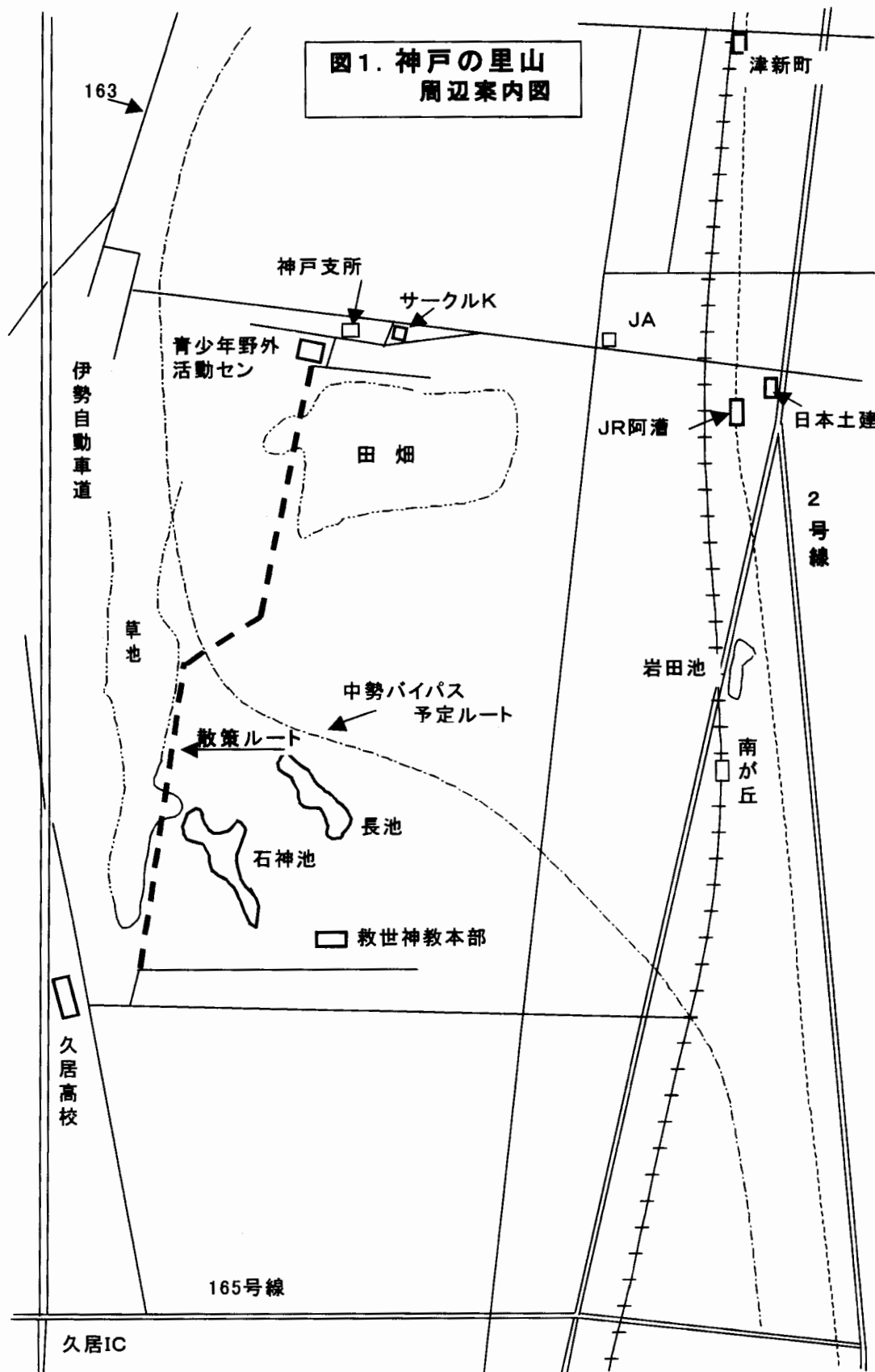
この里山では、それほど珍しい鳥との出会いは少ないかもしれませんが、小人数で鳥や植物を観察し、石神池の堤でお弁当を食べるつもりで出掛けていただければ、ユツタリと自然に浸っていただけたと思います。

現在、中勢バイパスがこの地域のほぼ中央を横断する予定で建設が進められており、自然環境への影響が懸念されます。一日も早く自然公園の指定を受け、落葉樹林を維持するために最小限手を加える程度にして、現状を維持していければイイナァと思っています。

「神部の里山」

1. 神部の里山 周辺案内図を次ページに掲載しました。（図-1）
2. 神部の里山を一年間観察された夏鳥と冬鳥および留鳥の種類・数をグラフ化しました。
夏鳥と冬鳥の消長（図-2）
留鳥の消長（図-3）

注意：残念なことに、この神戸里山周辺は狩猟区になっています。狩猟期間中は注意してください。



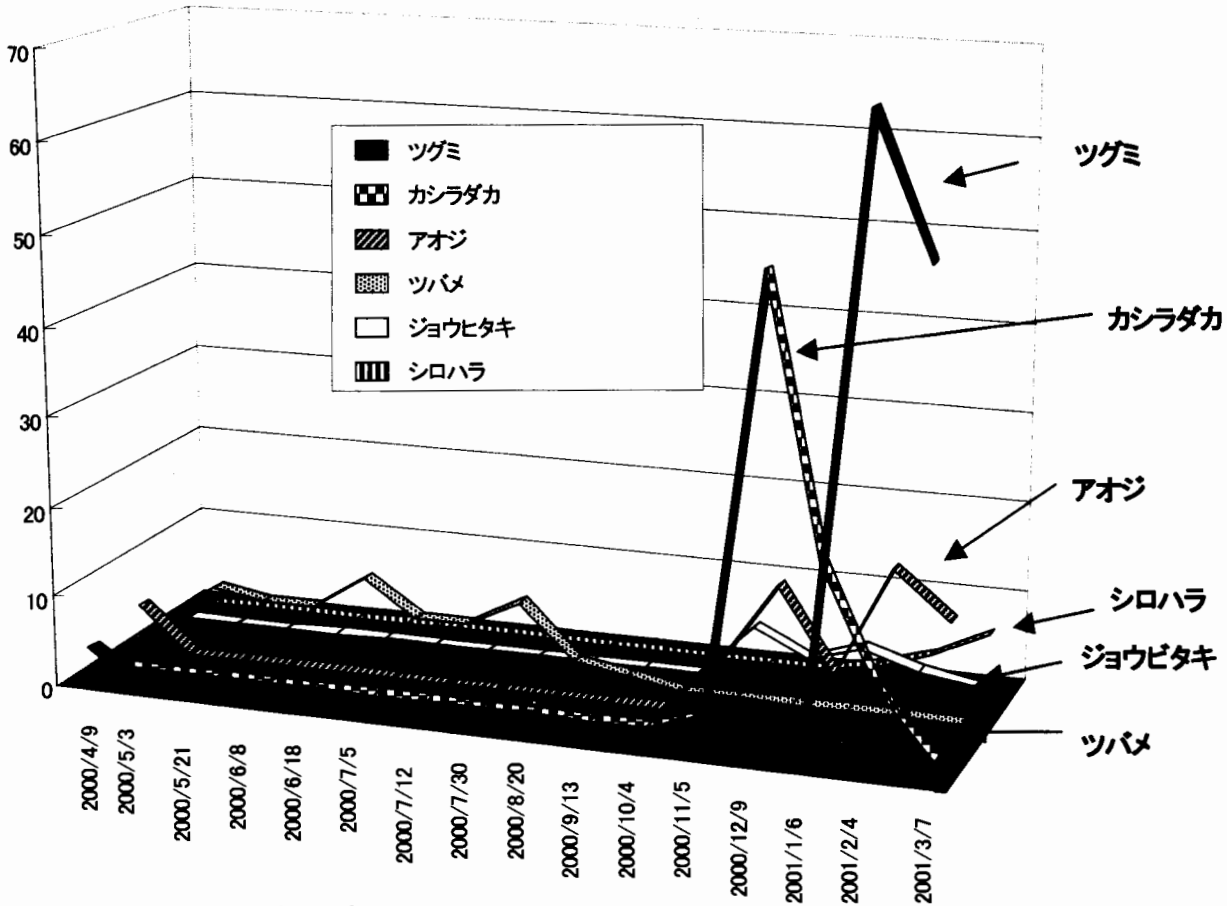


図2 冬鳥と夏鳥の消長

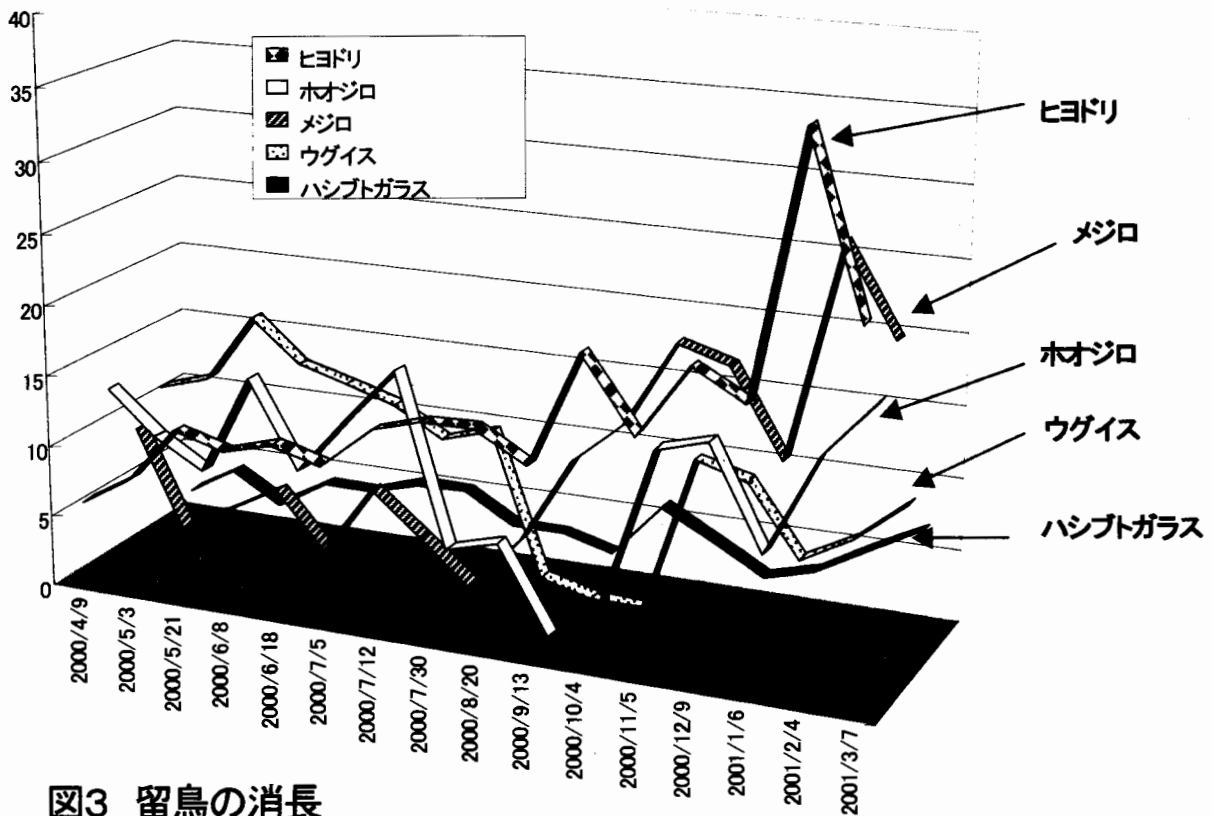


図3 留鳥の消長

父さんのジョウビタキ

松島雅之

何時の頃からかよく分からないが、秋も深まる頃になると決まって我が家を訪れる鳥がいる。その名前がジョウビタキであることを知ったのは私が日本野鳥の会に入会したここ二年ほど前のこと、そしてその姿の可愛らしさはたちまち私を夢中にさせてしまった。

ところが、私の家族にとって彼女の評判はあまりかんばしくないようだ、はっきり言って嫌われものと言っても過言ではない。

庭に有る紫色のヤマゴボウの実をタラフク食べた彼女は必ず洗濯物のバスタオルの上で休憩、そして駐車場の車のミラー相手に一暴れ。その後は決まって「父さんのジョウビタキが私のバスタオルに・・・」「父さんのジョウビタキが洗車したばかりの僕の車に・・・」と言うわけである。

しかし今年は少し状況が違っているようだ、この夏から北海道に単身赴任している私の所に第一報が着いたのは11月1日「父さんのジョウビタキがやってきたよ」、二、三日姿を見ないと「隣のネコにやられてしまったのでは」と大騒ぎ、挙句の果てには餌台まで作ってしまうほどすっかりアイドルになってしまっている。突然離れて生活することになった家族の間を行き来する彼女、目頭に熱いものが・・・。



(山田 昭子)

みむーの中国通信 (7)

三村 祥子

ニーメンハオ!

みむーです。上海も春節(旧正月)を迎え、新しい年が始まりました。

中国は旧正月を採用しているのでクリスマスが終わった後も1ヶ月位はそのままクリスマスツリーなど飾ったままです。その後、徐々に春節に移っていくのです。今年の春節は2月1日でした。そのため1月の土日のスーパーマーケットはバーゲンやら春節の準備(縁起飾り物)で超満員でした。1月はさしずめ師走といったところでしょうか?

ところで、2008年には北京でオリンピックが、2010年には上海で万博が開かれます。民俗学者の柳田国男が「中国は地形が単調だから散歩に向かないので人工の庭園を作る」と言ったそうですが、私が中国に来てからでも『飛躍地発展』のスローガンの下、街の風景がどんどん変わっています。

『中国のトイレ』と言えばご存知の方もいらっしゃると思いますが、最近のトイレはこちらの方もかなり改善されてホテルの五つ星のようにランク分けされているものも登場。星5つともなると入口には売店や休憩所、軽食コーナーなども完備されています。しかし中心部を離れると扉のないものや目と目が合うもの等昔からのものに出くわすと少々辛いものがありますね。

ちなみに上海は人口1200万人以上、面積は群馬県とほぼ同じです。中心地に近いところに住んでいる私の周りでは都市化が進み、とても鳥の住める環境ではありません。公園があったとしても芝生ばかりで木が無く鳥を見かけませんでした。スズメさえ探すのに苦労します。もっと鳥について書きたかったのですが期待に添えなかったのが残念です。

この中国通信も今回で最終回となりました。長い間稚拙な文章にお付き合いいただきありがとうございました。

謝謝 再見!!!

の夏、ガレージの上へ熱帯の鳥が落ちてきたと妻が騒ぐんです。羽根を広げて死んだのを見てもものすごく綺麗でそう見えました。しかし、良く見るとアオバトでした。驚きました。」と。少し歩くと田んぼの中をみんなが見ている。双眼鏡をあわす。ホオジロとヒバリである。中井氏が冬鳴きのヒバリの話をしている。又、100mくらい歩く間に先ほどの方がこの辺のモズは「ホーホケキョと鳴きます。」「あーそうですかモズは(百の舌)と書きまして、生まれた所の多くいた鳥とか、狩をする時に誘き寄せる為に泣き真似します。(これ全部マスターの受け売り)あれ本当にスズメ目なんですかね。」とこちらが疑問を投げ掛けてしまった。などと話ながら移動、川の上の土手の所へ。そして「ホーホケキョ」の声、11月だよもう冬だよ、うそだろう、先ほどのモズ?それとも西川のりお、か?この共通点は顔が大きい。ふたたび「ホーホケキョ」まさかと思い同時に双眼鏡を向ける。やはり「ホーホケキョ」であった。いや、ウグイスである。それも20~30もいる。冬のさえずり群れる習性を聞こうと、マスターに声を掛けようとする、すでに他の一点を注視している。そこでマスターの声「中井さんここイナおる。」中井氏「居ますよ。」2人のやり取りである。ウグイスの疑問どこへ行った。

この土手の中の水辺でもう一人の自分である釣人としての中枢神経をくすぐるものを見つけてしまった。ブラックバスである。45~50cmはある。このブラックバスで参加者の方と話が盛り上がる。食すれば白身魚で結構いけるとか、寄生虫はいないとか、池原ダムで食べさせてくれる所があるとか、キャッチアンドリリースしない運動があるとか、某釣具メーカーD社が主に放流を行っているとか、その話の中で、ルアーアングラーとしての性が出、シチュエーションコンストラクションが始まってしまった。初夏の明け方、シャローにいるバスをペンシルルアーか、ポッパーでサイトによせ、ロングキャストでペンシルをドッグウォークさせ、「ガバツと食わせる」と、我に帰る。

周りに人が誰もいない、よだれを出してしまった。「オーイ待ってくれ。置いていかないでくれー。」よだれを拭きながら追いつくと後方より鳥の気配、いつもなら木々の間

を、その持てる飛行能力を誇示するかの様に高速で飛び去るハイタカである。しかし、高度もほぼ人の高さを7~8mの距離でよく見て下さいと言わんばかりに、ゆっくりと羽ばたき、人の列を追い越していった。そう、最高!。その場所から100mくらいの所で志原川に掛る小さな橋に出る。その橋の所で人達の足元で青いキラキラしたものが二つ動いている。まさに妖精、人に近いとよけいそう見える。カワセミである。そして人の足の間を縫うように飛び、川の中へ。川の中で魚を取る所まで実演して見せてくれる。何とサービスの良い事か、ここの鳥達は。そしてヒヨドリの大群が飛行、マスターが「あれは渡りです。」と説明。ある事に気づく、手を伸ばせば、すぐにミカンがある。大量にある。枝が折れんばかりに。「こんなに成らすと本当は善い物が出来ません。ここの管理者は手を抜いています。」と参加者の方。このミカン畑の中の小さな谷の全体から「ギシギシギャーギャー」さすがに「ホーホケキョ」は聞こえないけど何羽いるのかすごい数のモズ達である。そこでまた、60倍で見たいコールが、心の中で20倍でカンペンして下さいと思いつつ?梢の先端のモズへ照準し(スコープのカバーをはずし照準線を出しておいた)アイピースの中へそしてピントも一発で合い全員の方にアイピースの中の芸術を堪能していただいた。小生も肩の荷がおりた。通常の道路は出ようとする所の橋でアオサギが林の中で休んでいる。近い。10~12m、少し前にモズ・アオバトの話をされた方がカメラを構えている。「少し首を縮めれば羽ばたきます、その時がシャッターチャンス」とアドバイス。数秒の沈黙の後、鳥が動く「今。」と小生・・・「アー」の声。「見とれて押せませんでした。」と言われる。残念、ま、仕方の無い事、「その内上手になります。」と話をしていると道路上でざわめきが。道路のアスファルトに温められた上昇気流に乗ってノスリの翻翔である、色が茶色ぼいので雌と思われる。人間に見上げられて照れたのか山の方へ滑翔していく。ずーと追って行くとその少し向こう側をハヤブサが例の如く特徴のある羽ばたきで高速飛行。いつ見ても心地よい。

(以下次号)

みむ一の中国通信 (6)

三村 祥子

ニーメンハオ! こんにちは、みむ一です。

家の前のイチョウの木がいつのまにかすっかり黄色くなって、「もう秋かあー」なんて思っていたら今度はポプラの葉が落ち始め、掃除のおばさんによって毎朝かき集められています。上海もそろそろ朝がづらい季節になってきましたが、みなさんいかがお過ごしですか?

今回はみむ一が上海の日常で目にする風景をお伝えしたいと思います。

6月(7, 8月と夏休みで日本に帰国していたので実質9月)より寮を出て上海で一人暮らしを始めました。幼稚園があり、小さな公園がある団地に住んでいます。家の周りでよく耳にするのがカラやメジロの声です。もちろん野鳥が住める環境ではないので、飼い鳥なのですが、アパートの上階から綺麗な声が聞こえてくるとおもわず上を見上げて声のありかを探してしまいます。中国に旅行する機会があればぜひ上を見上げてください。団地内だと必ず窓にかごが吊るしてあるはずですが。(北京などでは「洗濯物を外に出してはいけない」という条例があるのでしょうか、めったに窓から物干し竿を出している家が見当たらなかったのも、もしかしたら鳥かごも外に出ていないかもしれないですが…)

ご主人と一緒に散歩している鳥。なんていう風景もよく見られます。(もちろん鳥かごに入ってですが)他に『茶館』(中国式喫茶店)などでもかごに入った鳥がお客さんを楽しませてくれます。いつもかごの中で、あまり運動できる環境じゃないのでしょうか、少しぼっちゃりしていました。

(でも、もしかしたらあの大きさが成鳥なのかもしれませんが。ツグミくらいの大きさです)

朝、早起きして大学の構内を散歩するといつものように太極拳をする人々が。そのそばでは中国武術を披露する人がいました。もう少し歩くと小鳥たちが朝食を獲っている最中でした。まずスズメがいます。カ

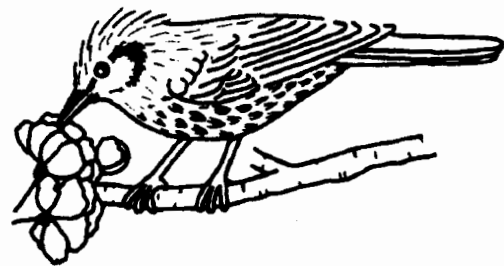
ラの仲間も枝から枝に飛び回っています。お昼、授業の合間にふと窓を見るとヒヨドリが木の枝に止まっています。

相変わらず綺麗な声で鳴いていますが頭のてっぺんが白くてまるで“白頭翁”中国でのヒヨドリの呼び名です。

上海ではどんなに生ゴミが多くてもカラスがやって来ることがありません。中国人がカラスを忌み嫌うことともしかしたら関係あるのかもしれない。

散歩帰り、学校から家まで20分。その道をゆっくり歩いていると中国風クレープ『鶏蛋餅』を売っている屋台を見つけました。朝は、鶏蛋餅を朝食に食べる人でとても賑わっています。『油条』(中国風揚げパン)が売り切れないうちに私も急いで買いに行きます。鶏蛋餅を食べながら朝の街を歩いていると、さながら「ティファニーで朝食を」のオードリーみたい。

アパートの前では近所の猫が迎えてくれました。たまにはこんな朝を迎えるのもいいかもしれない。と思いながらみむ一は中国生活を満喫しています。



ヒヨドリ

季節はずれの春国岱

敬老の日を挟む9月の三連休、バーダーの憧れ春国岱に出かけてみました。

「出かけみた」なんて簡単に言うけれど苦小牧からは往復800Km、勿論熊の方が沢山走っている高速道路は使わないから少し大変です。

この季節夏鳥はもういなくなり冬鳥にはまだ少し早いという、バードウォッチングにはあまり良い時期とは言えそうも無い、しかも雨まで降ってきてしまった。とりあえずネイチャーセンターへ雨宿りを兼ねて情報収集に訪れてみました。

そこで得た情報はクロガモ1500羽、スコープで覗いて見ると岬の先端の方に無数の黒い点。うーん、私にとって「初」しかもこの数、行かない手は無いな。

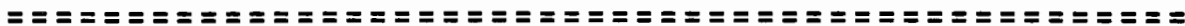
意を決してレインウェアに身を包み虫除けスプレーをぶっかけて出発！

ところが3分後には後悔で一杯。蚊・蚊・蚊、鳥一羽に蚊1000匹、虫除けスプレーなんて全く効果は無く、途中で間近に見るタンチョウやエゾシカにも心を和ませる効果は全くありません。

やっとの思いで辿り着いたクロガモの間近に見えるポイントですが、ここに長く留まる訳にはいかない、そんなことをしていたら失血死をしてしまいそう。1時間半かけてやってきて5分間の逗留。帰りに再度訪れたネイチャーセンターのレインジャー曰く「スコープで覗くと人間の形をした蚊柱が歩いてたよ」なんて冗談を言われてしまった。

しかし、あの真っ黒な体に嘴の上の明るい黄色いコブ、クロガモは私にとって最も思い出深い鳥の一種になる事でしょう。

北海道苦小牧市
松島 雅之



● 木曾岬干拓地探鳥会 (木曾岬町)
日 時：7月28日(日) 9:00~12:00
担 当：村田芳雄・近藤義孝
参加者：16名
観察種：アオサギ、カワセミ、ツバメ、カラヒリ、ハシボソガラス、キジバト、カルガモ、カワ、ダイサギ、バン、チュウサギ、セッカ、コトドリ、ミサゴ、カイツブリ、ケリ、スズメ、アマサギ、ハクセキレイ、ゴイサギ、コアシサシ、ヒヨドリ、キジ、コサギ、クササギ、ホシハジロ、ハシブトガラス、トバト、ヒバリ、ムクドリ、コシアカツバメ、タシギ、チュウビ
計34種

● 木曾岬干拓地探鳥会 (木曾岬町)
日 時：8月25日(日) 9:00~12:00
担 当：村田芳雄・近藤義孝
参加者：20名
観察種：カワ、カルガモ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ゴイサギ、クササギ、カワセミ、チュウサギ、ショウトウツバメ、キアシギ、キジバト、イソシギ、コトドリ、ソリハシギ、カイツブリ、ツバメ、セッカ、バン、アマサギ、ミサゴ、チュウビ、ムクドリ、ハクセキレイ、ヒバリ、キジ、ケリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、トバト、スズメ、カラヒリ、メジロ、キセキレイ
計34種

● 高松海岸探鳥会 (川越町)
日 時：8月25日(日) 10:00~12:00
担 当：市川雄二
参加者：21名
観察種：カワ、ウミネコ、ミサゴ、セグロセキレイ、コサギ、ダイサギ、イソシギ、セッカ、イソヒトリ、ハシボソガラス、キアシギ、アオサギ
計12種

コメント
地元の人たちの多くはこの高松海岸を大切にしています。今日は地元の環境保護に取り組む団体や働く町民のグループ大勢が集まり、8時からこの海岸の美化に取り組んでいました。
この機会を利用して自然の素晴らしさや大切さを知ってもらおうと我々の会の高さんが代表で、高松海岸の野鳥を中心とした自然について話していただきました。多くの方が郷土の素晴らしい自然を再認識したと思います。
この後、10時から恒例の野鳥の会の探鳥会を行いました。

探鳥会

暑い日でしたが一般の方々も加わり、たまにしか見られないミサゴやイソヒヨドリをみて堪能しました。小学生の女の子がお母さんと、夏休みの宿題に野鳥について調べるんだと参加してくれました。なんとなく我々を勇気付けてくれました。

● 五主海岸探鳥会 (三雲町)

日時：9月8日(日) 10:00~12:00

担当：久住勝司・西浦克征

参加者：13名(会員11名 会員外2名)

観察種：オソシギ、オグロシギ、オハシギ、ミユビシギ、キョウジョシギ、ソリハシギ、ハマシギ、チュウシヤクシギ、トウネ、キアシシギ、アカアシシギ、カラフトアオアシシギ、シロチドリ、メダイチドリ、アジサシ、コアジサシ、ウミネコ、ユリカモメ、ミサゴ、トビ、カウ、アオサギ、コサギ、ダイサギ、セッカ、ハクセキレイ、ツバメ、スズメ、ハシボソガラス

計 29種

コメント

すばらしい環境の干潟を遠くへ渡るチドリの姿と生き方をもっと多くの人に見て欲しいものです。

● 櫛田川・愛宕川探鳥会 (三雲町)

日時：9月15日(日) 10:00~12:00

担当：谷本勢津夫

参加者：16名(会員14名 会員外2名)

観察種：エリマキシギ、アオアシシギ、ソリハシギ、キアシシギ、チュウシヤクシギ、オソシギ、キョウジョシギ、ミユビシギ、ミヤコドリ、シロチドリ、メダイチドリ、トウネ、カガモ、ウミネコ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、カイツブリ、カウ、ヒトリカモメ、トビ、ミサゴ、ハシボソガラス、キジバト、スズメ、バン

コメント

探鳥地には公園が出来、駐車場・トイレもあり、開催地としてよくなった。

満潮時にも、干潟が適当にある。

● 木曾岬干拓地探鳥会 (木曾岬町)

日時：9月22日(日) 9:00~12:00

担当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：17名

観察種：コサギ、ゴイサギ、キジバト、ハシボソガラス、ア

オサギ、ダイサギ、カガモ、ハシボソガラス、ウミネコ、イソシギ、カウ、トビ、ムクドリ、セイタカシギ、クサシギ、コチドリ、チョウゲンボウ、アマサギ、センダイムシクイ、オカガモ、チュウシヤクシギ、ノビタキ、カイツブリ、ミサゴ、ショウトウツバメ、アマツバメ、トバト、カラヒリ、モズ、メジロ、カワセミ、ヒヨドリ、バン、スズメ、ツバメ、ハクセキレイ、コサメビタキ、ヒバリ、キジ、キセキレイ

計 40種

● タカの渡り探鳥会 (伊勢市)

日時：10月6日(日) 7:30~10:30

担当：林 淳子・吉居瑞穂

参加者：26名(会員24名 会員外2名)

観察種：サシバ、ミサゴ、ハヤブサ、チコハヤブサ、トビ、アマツバメ、ツバメ、ヒメアマツバメ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、コサギ、アオサギ、カウ、イソシギ、イソヒヨドリ、モズ、ヤマガラ、カラヒリ、キジバト、ムクドリ、イカル、メジロ、ヒヨドリ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハチクマ

計 40種

コメント

50羽、100羽とサシバの群れが大空に続く。総数1213羽を数えた。大量のサシバの渡りに皆、感動する。ヒヨドリの群も30羽、50と小群ながらもいくつかの群れを観察する。サシバとハチクマが同時に観察され識別も楽しむことが出来た。タカ渡り探鳥会始まって以来の大量のサシバの渡りに当たり、参加者一同大満足の日でした。

● 員弁川探鳥会 (員弁町)

日時：10月12日(土) 9:30~12:00

担当：近藤義孝・村田芳雄

参加者：14名(会員14名)

観察種：カイツブリ、カウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ハチクマ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、イソシギ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ショウトウツバメ、コシアカツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、セッカ、コサメビタキ、メジロ、ホシメジロ、カラヒリ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、トバト

計 30種

コメント

今回は雨で中止、今回の天候は良いものの参加者は居るだろうかという心配を吹き飛ばすように集合前にハチクマが上空を通過。コサメビタキが河岸林の中で観察でき、チョウゲンボウの出現に脅かされて逃げるというシーンまで見られました。

●服部川河川敷探鳥会（上野市）

日 時：10月13（日）10：00～12：00

担 当：前澤昭彦・塗矢博一

参加者：6名（会員）

観察種：キアシギ、ホシシロ、アオサキ、ウグイス、カツブリ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、モズ、オオカ、セグロセキレイ、コサギ、ムクドリ、ハクセキレイ、ツバメ、コシアカツバメ、キジバト
計 16種

コメント

時期的に早かった。目玉のチュウヒが出なかった。かわりにオオタカが肉眼で見える所から出て上空へ行くまで楽しんだ。

環境の変化や問題点

温暖化で当日は暑かった。そのせいで冬鳥は出なかった。



ヤマネ（熊澤 恵利子）

●志原川河口探鳥会（御浜町）

日 時：10月20（日）9：00～12：00

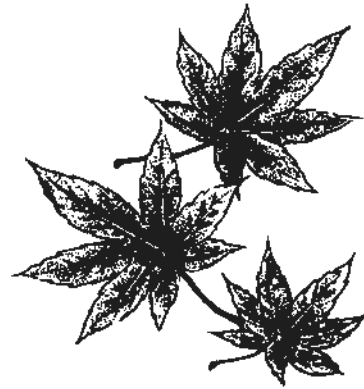
担 当：中井節二・保平長三

参加者：10名（会員5名 会員外5名）

観察種：チョウゲンボウ、スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、ビタキ、ホシシロ、ヒンズイ、タヒバリ、カササギ、カラヒタ、ウグイス、キジバト、トビ、ノスリ、ハヤブサ、イソヒヨドリ、セキレイ、ハクセキレイ、クイ、ハシブトガラス、ハシブトツガラス、コサギ、アオサギ、ヒバリ
計 30種

コメント

H15年2月にも、再度探鳥会を実施する予定です。なぜなら志原川が開発の危機にさらされているため数多くの人に見ていただきたいからです。その時期にはカシラダカ、ホオアカ、ツグミ類、カモ類も見える予定です。



編集後記

庭に実のならない柿の木があります。その木に熟した実をつけて、部屋から眺めるのが好きです。柿だけがお目当てであったかどうかわかりませんが、今までになんと11種類の鳥が来てくれました。

寒さに向かうこれからの季節はバードテーブルが格好の探鳥会ですね。会員の皆様も各自、楽しまれていることと思います。今年も後わずか。どうぞ良いお年を。

A・M

しろちどり 第37号 2002年11発行

題 字 濱田 稔

表紙絵 平井 正志

挿 絵 平井 正志・熊澤 恵利子

編 集 三村 通雄

〒

発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部

〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4

杉浦 邦彦方

印 刷 館 印刷

〒510-1321 三重郡菟野町田口

1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●